

日時

2020年11月13日(金)

18:30 – 20:30 (受付18:00 –)

会場

かでの2・7 710会議室

(札幌市中央区北2条西7丁目1番地)

開催趣旨

コロナ禍の中で奨励されるステイ・ホーム、在宅学習の子供やリモート・ワークの夫のために、家庭内無償労働の負担は母や妻に担われ、自らも就労している彼女たちの中には健康被害すら取りざたされている状況です。

かつて、あれほど議論が尽くされたはずの無償労働問題、実は何も変わっていなかったことを、ステイ・ホームは私たちに気付かせています。コロナ禍を共に経験している育児問題や介護問題の専門家のトークに耳を傾け、今だからできる無償労働問題の再考に、皆でチャレンジしましょう。

テーマトーク+α

コロナ禍の家族支援実践から見た育児負担と女性の困難

五嶋 絵里奈氏 (NPO北海道ネウボラ代表)

子育て支援NPO代表 北海道版ネウボラの構築を目指し、女性活躍とイノベーションによる地方創生を目指す社会起業家。北海道子どもの未来づくり審議会委員2期目。社会活動家として、2019年北海道知事選候補者の子育て政策の企画立案、行政政策への提言など子育て環境の改善のための活動を実践している。

私事化・ジェンダー化されつつけるケア労働とケア関係の限界

笹谷 春美氏 (北海道立女性プラザ館長)

北海道大学大学院教育学研究科博士課程、北海道教育大学名誉教授、著書に『フィンランドの高齢者ケア—介護者支援・人材養成の理念とスキル』(明石書店 2013年) ワーク・ライフ・ケアバランスを唱え、男性介護研究の先駆者でもある。北海道ジェンダー研究会代表。

参加無料です。事前の予約もいりません。当日会場までお越しください。ただ三密を避ける会場設定のため、席が埋まった時点で、参加者を制限させていただきます。

また、入室時のコロナ対策にご理解とご協力をお願いします。

お問い合わせ

北海道ジェンダー研究会

E-mail: h.genken@gmail.com

女性の育児・家事・介護負担の課題

何も変わっていなかった無償労働問題
—ステイ・ホームが見える化させた